

Susumu Yamaguchi :

Index to the Prasannapadā

Madhyamaka-vṛtti,

Part One : Sanskrit-Tibetan

Part Two : Tibetan-Sanskrit

長 崎 法 潤

ナーガールジュナ(竜樹)の「中論頌」は、「般若経」の空の思想を論理的に説く、中観学派の基本的な書である。それに対するチャンドラキールティ(Candrakīrti 月称、六〇〇—六五〇)の註釈「ブラサンナパダー」(Prasannapadā)は、中観佛教史上きわめて重要な註釈であり、サンスクリット原典、並びにチベット訳が現存する。ここに紹介する山口益博士編による本索引は、「ブラサンナパダー」に対する梵蔵・蔵梵対照総索引である。第一分冊(Part One)は梵蔵(Sanskrit→Tibetan)対照索引、第二分冊(Part Two)は蔵梵(Tibetan→Sanskrit)対照索引である。「ブラサンナパダー」は大乗佛教、とくに中観佛教研究に最も重要な註釈であるだけに、それに対する本索引は、佛教研究者が長く待望するところであった。この度、山

口博士がその序文(六頁)に記すように、「ひとえに学友平野隆氏の長い年月にわたる地味な協力」によって本索引が刊行されるにいたったことは、誠によろこばしいことである。

ナーガールジュナは、「中論頌」において大乗佛教に中観哲学の理論的基礎を与え、中観学派の祖といわれている。この「中論頌」に次のような註釈が伝えられている。

(1) ナーガールジュナの自註といわれる無畏註(Akutoḥaya)

(蔵訳にのみ現存)

(2) 青目(Piṅgala)の註(漢訳)

(3) 佛護(Buddhapālita)の註(蔵訳)

(4) 清弁(Bhāvaviveka)の註(蔵・漢訳「般若灯論釈」)

(5) 無著(Asaṅga)の註(漢訳「順中論」)

(6) 安慧(Śhīramati)の註(漢訳「大乘中観釈論」)

(7) 月称(Candrakīrti)の註(サンスクリット原典、Prasannapadā、蔵訳)

これら七種類の註釈書のうちサンスクリット原典とチベット訳が現存するのはチャンドラキールティの註釈「ブラサンナパダー」のみであり、サンスクリット原典並びにチベット訳を通して、文献学的に中論を解明しうる利点を有する。さらに佛教思想史の上から言えば、佛護の註に対して清弁が批判し、チャンドラキールティが佛護の立場を弁護したことによって、中観派の教学体系はブラーサンギカ派(佛護、チャンドラキールティの系統)とスヴァータントリカ派(清弁の系統)とに分裂した。したがって、「ブラサンナパダー」はブラーサンギカ派中

観説の代表的註釈であり、中観派の思想史の上でも重要な位置を占める。

ド・ラ・ヴァレー・プーサン(Louis de la Vallée Poussin)教授は、今世紀の初にこの「プラサンナバダー」の校訂出版に着手し、十年間(一九〇三〜一九一三)の歳月をかけて、*Bibliotheca Buddhica IV* (St. Petersburg) としてテキストを出版した。プーサン教授は、当時手にしうるあらゆる資料を用い、文献学的方法論を基にしてテキスト・クリティックを行なっている。佛教学に対する科学的研究方法は、ビュルヌフ(Eugène Burnouf)教授によって十九世紀初に始められたが、本格的な文献研究の成果がなされたのは、スチュルバッキー(Th. Stcherbatsky)教授、シルヴァン・レヴィ(Sylvain Lévy)教授、プーサン教授によってである。そのうち、とくに、プーサン教授の「プラサンナバダー」のテキストは、同教授校訂の *Bodhicaryāvatārapañjikā* (入菩提行論 *Bodhicaryāvatāra* に対するブラジュニャーカーラマティ *Prajñākaramati* の註釈書)のテキストとともに、文献学的研究にもとづく最もすぐれた成果の一つとして高く評価されている。

「プラサンナバダー」のテキストが出版されて以来、このテキストは大乗佛敎の研究者に最もよく読まれ、それによって中観佛敎の研究を大いに促し、多数の研究や翻訳がなされた。たとえば、スチュルバッキーは第一、第二十五章の英訳(*The Conception of Buddhist Nirvāṇa*, Leningrad, 1927), シャイネル(Stanislaw Schayer)は第十章の独訳(*Feuer und*

Brennstoff, Lwow, 1930), 並びに第五、第十二、十六章の独訳(*Ausgewählte Kapitel aus der Prasannapadā*, Krakowie, 1931), レポートは第十七章の佛訳(Brussels, 1936), ヨハ・モング(J. W. de Jong)は第十八、二十二章の佛訳(*Cinq chapitres de la Prasannapadā*, Leiden, 1949), ジャック・メイ(Jacques May)は第二、第四、第六、第九、第十一、第二十三、第二十四、第二十六、第二十七章の佛訳(Paris, 1959)を発表し、総合すると「プラサンナバダー」の全訳がなされている。さらにわが国において、荻原雲来博士は第十二、第十七章(荻原雲来文集「所収」)、山口益博士は第一、第十一章(「中論釈」I、II)、金倉円照博士は第十九章(福井博士頌寿記念「東洋思想論集」所収)、長尾雅人博士は第十五章(「世界の名著・大乘佛典」所収)の和訳をなしている。このように東西の学者が現代語訳をなしていることによって、大乘佛敎研究における「プラサンナバダー」の重要性を知ることができる。

ところで、ナーガールジュナの哲学の解明、並びに中観佛敎史上きわめて重要なこのテキストに対する本索引は、佛敎研究者に利するところ多大であることは言うまでもないが、具体的には、『*Prasannapadā*』の梵文と、好完なチベット訳の随一とされているチベット訳本との用語が対照されたことによって、中観説における重要な用語についての信頼のおける「Skt.→Tib.」「Tib.→Skt.」の用例をそこに見出すことができるようになったことである。』(序文、六頁)。周知のとく、中観佛敎論書の多くは、サンスクリット原典が散佚し、チベット訳において現存

している。佛教研究をさらに進めるには、チベット訳にのみ現存する論書を解説しなければならぬが、われわれが持ちあわせている Tibetan-Sanskrit Vocabulary の知識は、それらを解説するためにまだ不十分である。したがって、本索引における具体的な対照用例は中観論書の解説に最も有用である。

第二分冊の序文でも言及されているが、チャンドラキールティは、「プラサンナパダー」のほか、聖提婆 (Ārya-deva) の「四百論」に対する註釈 (梵文断片、藏訳)、その他多くの註釈を書いているが、それらはチベット訳にのみ伝えられている。さらに独立の論書として「入中論 (Madhyamakavatara)」を書いている。「入中論」はかれの主著であり、チベットの学問寺において中観説の根本論書としてコースの中に入れられて学習されてきた。プラサンギカ派中観説の教学体系はこの「入中論」において最も明瞭に説かれ、さらにチャンドラキールティの学説を説明するために最も重要な論書であるが、そのサンスクリット原典は散佚し、チベット訳にのみ現存している。したがって、研究はかなり進められているが、まだその全貌が明らかにされるにいたっていない。ところで第二分冊 (藏梵対照索引) の意義を述べた「序文」において、「プラサンナパダー」と「入中論」との両チベット訳は、同一チームの訳出者 (Zhang) と校定者 (Kanakavarnan) によってなされたことを指摘し、本索引によって「入中論」のサンスクリット原典の構成がかなり具体的に知られ、「入中論」が初めて「文献学的な研究の対象とされ解説されようになった」ことを山口博士は強

調しておられる。この点からも本索引の刊行は称讃的となるであらう。

本索引の特徴について二三記しておきたい。まず、本索引は、すでに言及したプーサン校訂本 (Bibliotheca Buddhica IV) を依用している。チベット訳のテキストは、北京版影印本とデリゲ版とであり、前者を主とし、後者を従として取扱っている。

「中論頌」に関しては、三枝充恵・久我順「中論梵漢藏対照語彙」(宮本正尊編「大乘佛教の成立史的研究」附録) がすでに刊行されている。したがって、「プラサンナパダー」に引かれているナールジュナの「中論頌」は、本索引の対象にされていない。利用者は両索引とともに用いればさらに便利である。サンスクリット原典とチベット訳のテキストを対校すると、前者にあつて後者に欠けている場合、またその反対の例がかなり見出される。対照を立前とする本索引には、その場合すべて採られていない。その他細かい点については「凡例」に詳しく記されている。

大乘佛教の論書の多くはサンスクリット原典が失われ、今やチベット大蔵經に収録されるそれらの論書を読まずには、充分な研究成果は望まれない。そのために果す本索引の役割ははかり知れないものがある。すでに、ラモート、ドゥ・ヨング兩教授をはじめ、世界の第一流の佛教学者から、本索引に対する高い評価が編者によせられているとのことである。最後に、本索引の作成、刊行のためになされた長年の努力を高く称えたい。

(一九七四年、平楽寺書店、B五版、各分冊八、〇〇〇円)